



#### 【第4回：子育て相談活動の実際と課題】

つくば市で相談活動に従事している秋元さんをお招きし、虐待やDVに対する対応の仕方や、他の機関につなぐ必要性について、お話いただきました。

#### 【第5回：地域の子育て・家庭教育支援力の向上を目指した地域づくり】

名古屋市天白区でネットワークの運営をされている吉岡さんから、支援者間のネットワーク作りの必要性をお話いただきました。講座の後半では、これまでの講義を踏まえて、地域の子育てサポーターリーダーとしての役割を考えるグループワークを実施しました。

第4回・第5回の講座を通じて、子育てサポーターリーダーは、日頃から関係機関とのつながりをつくっておき、相談の内容に応じて、関係機関や専門家につなぐ役割が求められていることがみえてきました。また、支援者としての自信をつけるためにも、日頃から、勉強会などを通じて研鑽に励むことが必要であることも確認されました。

ここで、講座を通じてみえてきた、子育てサポーターリーダーに求められる資質・役割を整理すると、次の3つに分けられます。まず1つめは、子育て中の保護者の抱える課題に対応するための能力です。具体的には、子どもの発達や障害に関するきちんとした知識を身につけること、保護者の抱えている問題を適切に判断し、相手の状況に配慮しながら対応すること等です。これは、サポーターリーダーに限らず、支援者に共通して求められるものだといえます。つづく2つめは、他機関との連携・協力を得ることです。



子育て中の保護者の必要に応じていつでも対応ができるよう、サポーターリーダーは関係諸機関との連携・協力体制を作っておく必要があります。最後の3つめは、地域にある子育て支援、家庭教育支援の資源・情報を理解し、それを有効に活用できる資質・能力を養成することです。こうした役割を果たすためには、自分が活動している団体の枠を越えて、地域全体に目を向けていくことが不可欠となります。このように、子育てサポーターリーダーは、子育て中の保護者の身近な存在であると同時に、地域を見渡す広い視野を持った人材となることが求められているのです。

こうした資質・役割が求められる子育てサポーターリーダーですが、今後活動していく上で、いくつかの課題を抱えています。その1つが「人材の活用方法」です。現在のつくば市では、子育てサポーターリーダーとしての資質・能力を持っていても、その能力を十分に活用する機会や場がほとんどないといえます。こうした貴重な人材を生かすためにも、今後は、活動の機会と場を提供していくことが必要であるといえます。



## 保育園における親育て・親育ちについて



### 第18回「かるがも・ねっと」学習会より

2008年1月28日(月)、「保育園における親育ち、親育てに学ぶ」をテーマに、第18回学習会を開催しました。前回までの「子育てにおける情報」に関する学習を通じて、母親たちがさまざまな情報に振り回され、悩んでいる現状が見えてきました。そこで、今回の学習会では、情報選択の基盤となる「生活」について学ぶため、まつぼっくり保育園前園長の山崎ひと子さんをお迎えして、保育園での生活、ならびに親育ち・親育ての実践についてお話を伺いました。さらにその後、山崎さんのお話を踏まえて、親育ち・親育てのあり方について話し合いました。このような会の流れを踏まえ、ここでは、学習会で出された、まつぼっくり保育園の

保育の基本，ならびに保育園における親支援のあり方についての意見をご紹介します。

### (1) 保育園での保育の基本

まつぼっくり保育園では，乳幼児期を，「人として育つ土台を作る時期」と位置づけ，「心」と「体」を育てることにこだわりながら，保育を行っています。こうしたこだわりは，開園以来，くり返し，園児の保護者たちに伝えられてきました。特に，新入園児の保護者に対しては，子育てに関する基本を書いたプリントを配布し，乳幼児の生活の基本を伝えています。ここでは，こうした園児の保護者たちに伝えられる「保育の基本」のポイントを簡単にご紹介します。

#### 食育

体を作る時期である乳幼児期において，まつぼっくり保育園が重視しているのが，「食事」です。昨今，朝食を食べない子どもが問題となっていますが，乳幼児にとって，朝食は，子どもの一日の生活を左右する重要なものといえます。そこで，保育園では，保護者に対して，手軽に作ることでできる朝食を提案しています。具体的には，さまざまな栄養が取れ，簡単に作ることができる，ご飯と具たくさんみそ汁といった，和食中心の食事を勧めています。実際，まつぼっくり保育園では，懇談会の時などに，園で実際に食事を作り，その様子を保護者たちに見てもらっています。手や時間をかけなくても，おいしくて栄養のある食事を作れることを，保護者に理解してもらおうという試みです。こうした活動の積み重ねによって，保護者は徐々に「食事」の重要性を認識していくようです。



#### 衣類

まつぼっくり保育園の保育の基本の一つに，子ども達が身につける「衣服」があります。体を作る時期である乳幼児の衣類には，保温効果だけでなく，皮膚呼吸がしやすく，汗を吸い取るといった機能をもつ素材が適しているといわれています。こうした点を踏まえ，まつぼっくり保育園では，特に，肌に直接触れる肌着等については綿100%でできたものを勧めています。また，衣服の点でもう一つこだわっているのが，「布おむつ」を使うことです。布おむつは紙おむつに比べて洗濯が大変ですが，子どもの健康のパロメーターとなる便をチェックしやすいという点にメリットがあります。また，子どもにとって，布おむつは快・不快を感じる練習の機会にもなります。こうした排泄の感覚を育てるためにも，布おむつは有効であるようです。

#### 生活のリズム

まつぼっくり保育園において，もう一つ重視しているのが，生活のリズム作りです。そこで，特に大切とされているのが「早寝早起き」です。保育園では，夜は20時～20時半には就寝し，朝は6時～6時半には目覚めるというリズム作りを呼びかけています。働く保護者たちにとって，こうしたリズム作りは簡単なものではありませんが，保育園では，「15分位ずつ早めたら」といった声かけをすることで，リズム作りを呼びかけています。保護者のできることから，具体的な声かけをすることで，早寝早起きの習慣作りを促しているのです。昨今では，父親とのコミュニケーションをとるために，父親の帰宅後，22～23時頃，子どもとお風呂に入るという家庭もあるそうですが，そういった家庭に対しては，父親にも少しでも早寝早起きをしてもらうこと，朝お風呂に入ること等といった具体的な提案をすることによって，子どもの生活のリズム作りに努めているそうです。



## (2) 保育園での親育ての取り組みと課題

### 保護者の参加

親育ての試みとして、まつぼっくり保育園では2ヶ月に1度、保護者の協力を得て、畑の草取り等の作業を実施しています。また、夏祭りを行う際には、保育園がすべて運営を担うのではなく、実行委員会方式を取っています。さらに、まつぼっくり保育園では、こうした園の行事や作業を実施する際に、父親の参加も積極的に促しています。具体的には、保護者の父親をメンバーとする「親父の会」を立ち上げ、さまざまな活動をしています。他にも、子どものとの遊び方がわからない父親に向けて、遊び方が出ている絵本を紹介したり、年に一回、遊び方を説明する会を設けたりしています。こうした機会を通じて、保護者達は子育てに関心をもち、自ら参加するようになっていくようです。

### 保護者への対応の難しさー子どものケガに対する対応

このように、保護者に対してさまざまな働きかけをしているまつぼっくり保育園ですが、保育を行う上での悩みを抱えています。それが、子ども同士のトラブルで生じたケガに対する対応です。まつぼっくり保育園では、保育の時間に起こったケガについては、保育園側に責任があると考えています。したがって、ケガをした子どもの保護者から「ケガをさせた子どもを教えてほしい」という要望が出て、ケガをさせたのが誰であるかを教えることはありません。ケガの責任は、ケガをさせた子どもにあるのではなく、目が届かなかった保育園側にあると考えているためです。ただ、こうした保育園の対応は、ケガを負った子どもの保護者からは納得が得にくいという難しさも抱えています。

こうした事例に対して、学習会の参加者から、その後の子ども同士・保護者同士の長期的な関係を見越して考えると、わだかまりを残さないよう、きちんと話し合って解決することも必要ではないかという意見が出されました。第3者にとっては「お互いさま」という言葉で片付けられる事柄でも、当事者たちにとってはなかなか受け入れられないこともあります。そうした点を考えると、保育園側の責任としてまとめてしまうのは、根本的な解決にはならないのではないかという意見です。同じ子どものケガに対する対応でも、全く異なるやり方が出されました。いいかえれば、子どものケガへの対応は、それだけ難しい問題であるといえそうです。

こうした話し合いの中で、ケガの問題も、ケガを負った/負わせた子どもの双方の保護者同士のコミュニケーションがあれば、解決しやすくなるのではないかという意見も出されました。今後は、対応の仕方と共に、保護者同士の横の関係作りも考えるべき課題といえそうです。

## イベントのお知らせ

### ① 子育て休憩室主催「自然に触れよう！くさもちつくろ！！」

春になって、たくさんのかわいい草が葉をのばし始め、木にもお花やかわいい芽が付き始めました。公園をお散歩しながら観察したり、草つみをしたり・・・ヨモギも芽を出し始めたので、みんなで「よもぎ餅」を作りましょう。お天気が良ければ、作りたてのよもぎ餅とおうちで作ったお弁当でピクニックをしましょうね。

日時：2008年3月18日（火）10:00～13:00

場所：手代木公民館と松代公園内（吾妻ではありません！）

定員：25組（要予約・予約は3月15日まで）

予約先・問い合わせ：子育て休憩室ホシノ TEL：851-5263（18時前は留守電）

## ② 「しぜんっこくらぶ in ゆかりの森」平成 20 年度参加者募集！

豊里ゆかりの森で季節の自然を感じながら、四季折々の行事や野外料理を組み入れた幼児とお母さんのための自然体験教室を行っています。自然の中での様々な発見や感動、懸命に命をつなぐ生き物への共感、幼い心に感受性やおもいやりを育みます。一緒に楽しく活動しませんか？

参加費：親子 1 組 900 円

※年間会費（畑の維持管理費を含む）として、別途 2000 円

申し込み：3 月 21 日（金）から、FAX/TEL、メールで受け付け。先着順。

申し込み・問い合わせ先：NPO 法人つくば環境フォーラム

TEL & FAX：029-863-5151 E-mail：tef298@lime.ocn.ne.jp

## ③ ままとーんつどいの広場 プチイベント「赤ちゃんの歯（お口）のお話」

たくさんの子どもの歯を見てきたベテラン歯科医師さんが、現代の子どもが抱えるお口の問題を解きます。虫歯、歯並び、離乳食・・・子どものお口は気になることがいっぱい！0 ヶ月からできる「口育て」を一緒に考え、実行しませんか？低月齢（0 ヶ月～2 ヶ月）の赤ちゃんの参加も大歓迎です。

講師：桑原未代子先生（ライオン歯科衛生研究所顧問）・石田房枝先生（石田歯科医院長）

日時：2008 年 4 月 10 日（木） 11:00～ 1 時間程度

場所：ままとーんつどいの広場（つくば市赤塚 641-1 稲荷前交差点そば）

参加費：無料（申し込みは不要）

問い合わせ先：NPO 法人ままとーん

TEL & FAX：029-838-5080（※TEL：月・火・木曜 10～15 時）

## ④ つくばウェルカムパーティー 2008 を開催します！

プレママや乳幼児を持つママたちの「つくばの情報を知りたい」「ママ友達を作りたい」を応援します。パパの参加も大歓迎です！

日時：2007 年 5 月 30 日（金）10:00～12:00（受付 9:30～9:45）

場所：つくばカピオ アリーナ ※参加費無料・駐車場有料

申し込み期間 2008 年 4 月 15 日（火）～5 月 15 日（木）

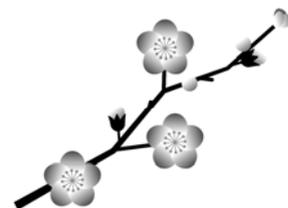
申し込み方法：ままとーん HP、FAX、はがき（5 月 13 日（月）消印有効）、つどいの広場での直接申し込み、のいずれか。

FAX、はがきの場合には、住所・参加者全員の氏名・読み仮名・年齢・電話番号・妊娠の有無・ウェルカムパーティー参加希望を明記のこと。

問い合わせ先：NPO 法人ままとーん

TEL & FAX：029-838-5080（※TEL：月・火・木 10～15 時）

URL <http://mamatone.org> 携帯用 HP <http://k.mamatone.org/>



## ⑤ 「鯉のぼりのお祭り」実行委員募集！

4 月半ばから 5 月にかけて、「つくばセンター広場」で「鯉のぼりのお祭り」を計画しています。実行委員になって下さる方、お手伝いをして下さる方、ささやかなお祭りに参加しようという子育てグループや支援グループを募集しています。

問い合わせ先：ホシノ E-mail：kosodatekyukeishitsu@apost.plala.or.jp

\* \* \* \* \* ぜ ひ ご 参 加 く だ さ い \* \* \* \* \*

つくば市の子育て支援を考える 子育てのわ 2007～2008

子育てに欠かせないこと・譲れないこと  
— 次世代に何を伝え、何を遺すのか

子育て支援の場において、また、子育てをしているときに、欠かせないこと・譲れないことは何か。形山睡峰先生のお話を聞き、子育てにおいて、大人として、親として、子どもたちに伝え、残すべきことを参加する皆さんと一緒に考えてみませんか。

【内 容】

- 13:40～14:55 講演 「子育てに欠かせないこと、譲れないこと」  
講師：形山睡峰氏（かすみがうら市 無相庵菩提禅堂老師）
- 15:00～16:20 意見交換 「大人として、次世代に伝え、残すべきこと」

日時：2008年3月29日（土）13:30～16:30

場所：つくばインフォメーションセンター 大会議室

参加費：500円（資料代含む）

申し込み締切：3月26日（水）

申し込み・問い合わせ先：E-mail: karugamo\_net@yahoo.co.jp

TEL & FAX：029-853-4599（筑波大学 飯田研究室）

かるがもの羽音 - 編集後記 -

「ニュースレター 19」をお届けします。

教育関係の新聞で、来年度の文部科学省の予算案について報じられていました。「家庭教育力の向上」を目指す新規事業として、「地域における家庭教育支援基盤形成事業」と「家庭教育支援指導者養成標準カリキュラム開発事業」が始まるようです。

最初の事業は、家庭教育や子育てに関する相談にのったり、情報提供をしたり、さらには、地域で孤立している保護者や子育てに無関心な保護者を訪問支援する「家庭教育支援チーム」を小学校区ごとにつくろうというもののようです。「子育てサポーターリーダー」は、この「チーム」の中心的存在に位置づけられています。後の事業は、そうした子育てサポーターリーダーを養成する標準研修カリキュラムを開発しようというもの。「子育てサポーターリーダー」の資質の向上と活用は、国の施策でも、今後、ますます重視されていくようです。

施策はどうあれ、今、必要なものを必要な形で…。できることを、できることから…。使えるものは何でも使って…。「かるがも」は、身軽に、しなやかに、飛んでいきたいものです。（ひ）



発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる

機関・団体・サークル・ボランティアのネットワークです。

発行日：2008年3月7日

編集：飯田浩之・岩村一代・丹治恭子

連絡先：【E-mail】 karugamo\_net@yahoo.co.jp

【FAX】 029 - 853 - 4829（筑波大学共生教育学（教育社会学）研究室）